

おうちの図工室、美術室

かげをつかまえる 実践報告

岡山大学教育学部附属中学校 1年生（前期）武田聡一郎先生の実践 授業時間 2時間

実践の様子（語りかけ、子どもたちの様子）

STEP1：知っていること、出来ること、感じることで子ども達はできている

Q：机の上の筆箱にライトの光を当ててみましょう

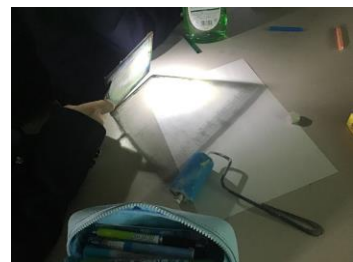
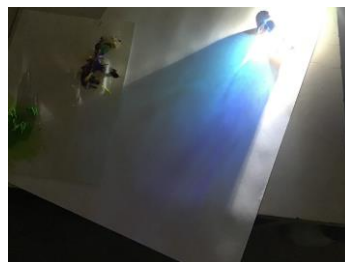


事前に、家に懐中電灯のようなライトがある人は持つてくるように、ということを生徒に伝えました。また、美術室の真ん中の机に美術室にある様々なものを置いておきました。

授業では、まず机の上にある自分の筆箱に光を当てました。机の上には筆箱の影ができて、ライトを動かしたり、近づけたり、離したりすると、影の形が変化することを確認しました。

STEP2：Aの範囲の外に、自分の知らなかった「何か」（新しい価値のタネ）を見つける

Q：かげをつかまえてみましょう。もしも、「かげ」に色があつたとしたら？



↑光を当てるものや光の当て方によって、できる「かげ」も様々です。自然と試行錯誤が生まれます。

自己を深める

「きれいだな。」「おもしろいかも。」自分にとって美しいものやおもしろいものを、身体を使って見つけようと思います。

深く見つめる

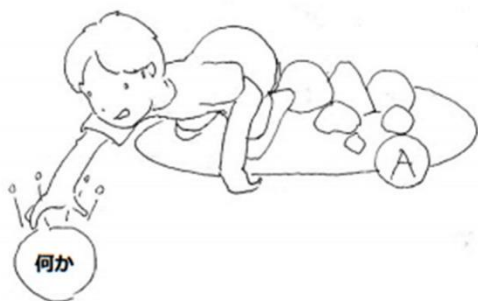
「こうしたらどうなるんだろう？」普段あたりまえに見ている「かげ」にも、いろいろな「かげ」がある。ものと光と影の関係を身体で感じます。

「かげをつかまえてみましょう。」という投げかけに、生徒は最初「？」といった様子でした。友達と相談をしたり、とりあえず光を当てるものを探して、光を当てたりしていました。選んだものの素材のちがいや、光を当てる距離や角度によってできる「かげ」も様々でした。「うわー！きれい！」「これおもしろい！」「こうしたらどうなるんだろう？」など、言葉にして友達と会話をする生徒もいれば、静かに光を当てている生徒もいました。生徒たちは「何か」を見つけ始めているようでした。

おうちの図工室・美術室

STEP 3 : 夢や願いの達成のために計画を立てやり遂げる

図工室・美術室は、表現する過程を、
自分自身だけでなく、友達とも共有できる空間



共感性

「このへん?」「これくらい?」
友達が求めている「かげ」に近づけるように、
ライトの当て方を工夫します。友達が見てい
るものを一緒に見ようとします。

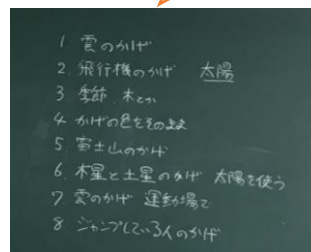
自分のかけている眼鏡に光を当ててみる生徒や、いくつかのものを組み合わせて影をつくらうとする生徒など、試行錯誤はより活発になっていきました。「かげをつかまえる」方法も様々で、コピー用紙に影を映して輪郭をなぞる生徒や、スケッチのように目の前にあるものと影をよく見て描く生徒など様々で、自分なりの「かげのつかまえ方」と向き合っていました。また、友達にライトを持ってもらうなど、協力し合う様子も見られました。

STEP 4 : 発見したものに新たな自分なりの価値づけ

Q : 活動を通して、感じたことや考えたことは?

みんなだったら、次にどんなことをしてみたい?

次にやってみたいこと。
雲、飛行機、木…など。



ライトをあてる向きを変えることにかげり向きが変わるの面白かった。
私はピンと進めてかげをつくらせた。
かげ自体は外にいくつ水 暗い色になるので、色をぬるとおぼ。
反対に明るい色になるようにしました。
他の人を見ていると、7方向からのかげをかきや、全方向からかきまいて
て水がわちかわるなと思いました。

相互鑑賞では、自分が感じたことと似たようなことを友達が感じていたり、自分とはちがう感じ方をしたりしていることを確認している様子でした。「みんなだったら、次にどんなことをしてみたい?」と投げかけると、「ライトの色を変えてみたい」や「大きいライトでやってみたい」、「太陽もライトとして使えるかもしれない」、「人間でやってみたい」、「雲の影をつかまえない」など、様々なアイデアが出ました。